

午後二時四十五分

○額賀衆議院議長 今日はお忙しいところ、御出席をいただいております。ありがとうございます。

これまで、安定的な皇位継承に関しまして全体会議を二回行いました。その後は、各党各会派から個別に丁寧な意見を聞くことといたしましたわけで、個別の意見聴取を行っております。各党各会派からの個別聴取を始めた時期が審議日程がタイトであった通常国会終盤とも重なって、御党からの聴取が遅れてまいりました。閉会中となつてしまいました。

本日は、第一回目の全体会議でお示しをいたしました各論点について、また、全体会議についての今後の運営等についての御意見をいただきたい、こう思っております。

これより三十分間、時間をセットしてありますので、御意見を述べていただければ有り難いと思っております。

意見聴取については非公開といたします。ただし、今後の取りまとめの参考にするために、議事録は作成をいたします。

なお、各党各会派において、意見聴取終了後、議長公邸を出られた後に、本日御意見を述べられた内容につきまして、プレス等についてお話しすることは構いません。

そういうことを前提にして御意見をいただければ有り難いと、こう思っております。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

○浜田聡君 よろしくお願ひします。
では、私の方からお話しさせていただきます。

今回、論点とあと運営方針をお話しさせていただけるということです。これに関しては、論点、運営方針、分けることなく、一応、今回三点お伝えさせていただきたいと思っております。

我が会派の意見はもう既に公表もしておりますし、提出もさせていただいたところでございます。それはもう繰り返すので、ここでは述べない、まあ省略させていただきます。全体会議二回を経まして、その上で三点お伝えさせていただきたい。

一点目は、やはりこの皇位継承の問題というのは先例を重視すべきと、それを大前提とすべきであるという点でございます。今回、立法院の取りまとめというわけではありますが、直近の選挙、直近の民意で選ばれた国会議員がある程度決める、立法院の姿勢を出すということは必要だとは思いますが、ただ一方で、二千六百年以上続いた皇位継承、その先例にないことをするのは非常に慎重でなければいけないということでございます。基本的には、菅政権のときの有識者会議で出ました男系継承、これが大前提と考えておりますし、それは我々の会派が出した意見書とも矛盾するものではありませんということでございます。

三点のうち二点目ですね。こちらは全体会議二回を通しての私の所見なんですけれど、現在の皇位継承の順位ですね。今後、秋篠宮皇嗣殿下、そして悠仁親王殿下、この皇位継承の順位に関しては全体会議で特に反対意見はなかったと思いますので、それは立法院の総意として出してもいいのではないかとというのが二点目ということでございます。

ます。

あと、三点目でございます。こちらは少し政局と言つていいかもしれませんが、立法院の総意を出す上で、私はやっぱり与野党の方である程度の方角性は出すべきと考えているんですけど、その際に、その野党第一党の立憲民主党さんの意見が定まっていなかったというのが印象として持っていたところなんです。全体会議二回で出した意見としては、いろいろと論点整理、論点を出されたということだと思っております。一方で、立憲民主党さんとしての意見というのは、ちょっと私は理解、何か余りはつきりと意見は出されていなかったもので、そのところを可能であれば議長、副議長の方からプッシュしてもいいのではないかと私は思うところでございます。

その内容について少し、更に行きますと、今後の皇位継承を考える際に、意見として出たのが、やはり女性宮家の可能性を訴えられていたのかなと思っております。私としては、やはり男系継承ということと考えると否定的ではあるのですが、ただ一方で、そういう意見が野党第一党から出るということは、それはそれで尊重しなければいけないとは思っております。

その際に、女性宮家創設となったときに、いろんなケースが想定されると思うんですけど、ただ、先例に反することを行わないということ、先例にないことが発生しないようにという、ちょっと表現が変かもしれませんが、そういうときのために、最近いろいろと話が出ております女性宮家、女性皇族の方が一般男性の方と御結婚された

と、仮にされたとして、その女性皇族の方が皇室として残るとした場合に、その一般男性の方を准皇族という扱いで、まあ准皇族という制度を考えてもいいのではないかといいことでございまして、この准皇族というのは先例にあることと認識をしておりますので、これに関してはほかの政党、会派でも意見が出ていますとは認識をしておりますので、我が会派としても、女性宮家創設となった際には准皇族という制度を考えてもいいのではないかといいことをお伝えさせていただきたいです。

三点目、ちよつと長くなりましたが、以上となります。

○額賀衆議院議長 ありがとうございます。

私、各党の皆さん方に大きっぱな共通の認識ってどうかと思つて聞かせていただいているのは、一つは、御党でおっしゃられました、浜田さんがおっしゃられた、悠仁様までの皇位継承については、有識者会議でもこれをゆるがせにはしていないという形になっていますので、この点についてはどうかということ聞いています。今、ちゃんと、しつかりとこれは守っていくべきだという話でございました。それはそれで了解いたしました。

もう一つは、皇族数のことで、皇族数を増やしていくことについて、これも聞いています。もう悠仁様の時代にしっかりと支えていくような形をつくっていくために、これを増やしていくことはいいいですよね。増やし方については、いろいろ今もお話が出ましたけれども、様々な意見がありますけれども、その前提として増やしていく

ことはいいいよね。しかも、なおかつ、これは喫緊の問題でもあるので、各党が了解してくれば、一定の法的な措置を講じてしっかりと支えていくことも大事だよねということなんだろうと、こう思います。この点も、もうよろしいですよ。

○浜田聡君 そうですね。この点に関しては、先ほど、准皇族、女性宮家の話は出しましたけれど、大前提としては、菅政権での有識者会議の報告であります旧皇族の方々の皇籍復帰、そちらの方が優先的に進めるべきとは考えております。

○額賀衆議院議長 今、三つ目、そのことをお尋ねしようと思つたんですが、それについても了解をさせていただいているということでもよろしいですね。

○浜田聡君 はい。

○額賀衆議院議長 先ほどの、何と呼んでいましたか、准皇族の話については、これももうどこかで。

○海江田衆議院副議長 ちよつと私、いいですか。

○額賀衆議院議長 どうぞ。

○海江田衆議院副議長 大分ほかの党からも出ています、今、浜田さんも前例があるというお話があったので調べてみたんですけど、要するに、皇位継承権は持たないけれども、皇族、とりわけ天皇の持つ権限の幾つかを持つというのがその中で、その天皇の持つ権限というのは昔のことです。それから、言ってみると、租庸調で何かそういう権限とか、それから、この人を官位、位階、何に任ずるとか、そういうものをやられることができるという人であったというふうに理解しているんで

すけれども、それだと、今の時代と、平安ですとかその時代とか、えらい違い。今、天皇陛下は別にそういう、あるいは皇族の方々は徴税の権限とありませんし、それから誰かを位を授ける権限もありませんので、何をおっしゃっているのかなと、先例というのは。教えていただきたいんです。

○浜田聡君 私も、具体例が幾つかあるとは認識をしておりますが、ちよつとそれがいつの時代だったかということまで私自身は調べ切れてはおりません。

ただ、この准皇族に関しては、野田政権時代に、有識者会議の今谷明先生ですか……

○海江田衆議院副議長 だから、その先生が言ってみると准皇族みたいなものとおっしゃっただけの話で、あの先生のお話というのほかに学界全体でオーソライズされた話じゃありませんし、言ってみると、御本人自身も確固たる信念があつての、まあ信念はあるかもしれないけど、それが何か本当にしっかりと、ああ、そうだねと得心できると、まあ中身ではないので、やっぱりできたら是非お調べいただいて、こういうことなんだというイメージを持たせてもらいたいですね、私たちに。

○浜田聡君 なるほど。

○海江田衆議院副議長 何かちよつとイメージが違ふかなというふうに思います。そういう案があればすごくいいわけですけどね。是非お願いします。

○浜田聡君 准皇族のお話については、我が会派

も一応レクチャーを専門の方に受けているわけで、ちよつと今回そこまで、そちらを積極的に進めるべきという考えではないので、そこまで準備していなかったわけで、ちよつとその点は大変恐縮でございます。

ただ、この准皇族のお話に関しては、我が会派のみならずほかの会派でも出ている意見だとは思いますが、その点、我が会派だけの意見ではないということ。

○海江田衆議院副議長 ですから、それを聞いて、私もどうしたことかなと思つて調べてみたらそんなようなことだったので、また今出ましたので、私のこの調べた結果の一部をお話ししただけで、是非教えていただきたい。やっぱり、今の皇族に何か当てはまるものがあるのか。

○浜田聡君 少し細かい話ですけど、漢字ですかね。准皇族の准が、一般に使われる……

○海江田衆議院副議長 さんずいじゃなくて。

○浜田聡君 そうですよね、准教授の准にもなっているんで、そこにも少し特別な意味はあるのではないかと。

○海江田衆議院副議長 ただ、あのときは先生は言葉でしゃべっているんですよ。だから、それを当てるのは、どの字を当てるかはその当てた人の主観が入っていますから、漢字で書いたものを出したということでは、私、ないと聞いているんですよね。

○額賀衆議院議長 さんずいの準ですか。

○海江田衆議院副議長 だから、さんずいの準と、それから準という、準ずる、にすいか、准教授の

準というね、準ずるといふ。まあ同じなんですけどね、本当はね。

○額賀衆議院議長 なるほど。

○浜田聡君 通信社の報道のときにはさんずいの準で出ているので、ちよつとその点、それでいいのかなということはちよつと気になる場所ではあります。

○海江田衆議院副議長 意味は同じなんですよ。

あれ、長浜さんなんかも聞いていたんじゃない、あのときの話は聞いていなかった。

○長浜参議院副議長 ですから、女性宮家のいろんなバリエーションの開陳があつたわけですけど、その制度として、おっしゃられたように、他の参考人含めて、概念規定がきっちり決まっているわけではありませんので、女性宮家というか女性の皇族の身分の問題も、准公務員的な形にしてやるとか、そういういろんなバリエーションが出ましたから、あのときの議論は。

○浜田聡君 准皇族のお話は確かに今回出させていただいたんですけど、あくまで我が会派としては、女性宮家よりは旧皇族の方々の皇籍復帰、こちらを進めていただきたいというのが意見でございます。

准皇族を仮に取り入れたとしても、その皇位継承はなくて一代限りということでございますので、二千六百年以上続いてきた皇室、皇位継承に関しては、継続性という意味では少し否定的なのかなと。あくまで、意見がちよつとまとまっていらない野党第一党さんの中の妥協案のようなものでございますので、一応、我が会派の意見としては、現

实的といえますか、旧皇族の方の皇室復帰を進めていただきたいとは考えております。

立法院の方で取りまとめをされるということですが、副議長には大変な御苦勞をお掛けすると思いますが、ただ、やはり国民にとって非常に重要な問題ですので、我々としても協力できることはします。是非進めていただきたいというのがお願いのところでございます。

カレンダーを考えると、自民党さんも立憲民主党さんも総裁選が控えていると認識しておりますので、ちよつと動きにくい点も、党として動きにくい点もあるとは思いますが、ただ、そうはいっても、皇位継承は時間との闘いでもあります。皇族の方々が少ない中で、時間も限られていきますので、そこはやはり急ぐべき問題なのかなと考えております。

○額賀衆議院議長 これ、そもそも、こういう国会の中で議論始まったのは、何かいろいろ読んでみると、二〇〇五年の頃なんですかね。

○海江田衆議院副議長 二〇〇五年というところ。

○額賀衆議院議長 もう二十年近く。

○海江田衆議院副議長 そうですね。

○額賀衆議院議長 表に立ってこうやっているのは最近だけど、喫緊の問題であることは間違いがないよ。

○海江田衆議院副議長 だから、まあはっきりしているのは、小泉内閣で……

○額賀衆議院議長 表にばんと出てきたのは。

○海江田衆議院副議長 出てきたのがね。そうですね。それがほぼその前後ですよね。

○額賀衆議院議長 何かのあれ読んでいたら、二

〇〇五年の頃からこういう問題提起みたいなのがあつてという話があつた。その頃から、二十年も前からやっているのかと、政治って何やっているんだらうねという感じを、印象を受けたことありましたよ。

○浜田聡君 だから、ちょっと難しいのは、皇室の方々の問題でありますので、政治の口出しどこまでしていいのかというところもちよつと難しいところとは思いますが、ただ、やはり日本の歴史の問題でもありますので、ある程度は仕方ないのかなとは思いますが。

ただ、現状、戦後のGHQの政策で皇室を追い出された方々がいて、それが今の問題につながっていると思われまので、そういう点も含めて議論してもいいのかなということで、それは先ほど来申し上げております旧皇族の方の皇室復帰が一つの歴史的な転換点といえますか、個人的にはそれが達成できたら非常にうれしいことだと考えております。

○額賀衆議院議長 時間もあれなんで、浜田さんに確認だけしておきたいことは、先ほども自らおっしゃってくれましたので、皇位継承者の順位については悠仁様まではそのとおりですよねという話でした。あと、皇族数、女性皇族が減っていきまますので、これを増やしていくことについてもいいですよ。それから、今おっしゃった養子の問題ですね。大体それが共通の認識としてあれば、一定の底というか、できてくるんで、ということの上に、どういうふうになっていくかとい

うことを皆さんの意見を踏まえて考えるということだろうと、こう思っています。

これは政局ではないんだけど、浜田さんがおっしゃった、与野党ね、やっぱり立憲と自民党ですよ、自民党、公明党ですが、これ、きちつとしてよというところは、認識としてはそのとおりだと思います。我々ができるかどうかは別にしてですね。

何かありますか。

○尾辻参議院議長 非常に積極的な御意見を出していたけれど、前に少し進む感じがいたしておりまして、これまでこの会議出ておりますが、何かなかなか前に進まないという思いもあつたんですが、今日、積極的な御意見をいただいたと思います。そうした面をまた更に進めていただければと思います。今後も御指導をよろしくお願いします。

○額賀衆議院議長 今日はありがとうございます。

午後三時十分